

令和 4 年 5 月 31 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00714

研究課題名(和文)日本で医師を目指す外国人留学生の医学日本語能力の獲得に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Acquisition of Medical Japanese Language Proficiency by International Students Who Want to Become Physicians in Japan

研究代表者

品川 なぎさ (Shinagawa, Nagisa)

国際医療福祉大学・総合教育センター・講師

研究者番号：30445142

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、医学部留学生が獲得すべき日本語能力として下記の2点について調査・研究を行った。

語彙力：まず、医学用語の習得・定着を図ることを学修目的とした医学日本語コースを開発し実践した。次に、実践における医学用語習熟度を測定するため、医学語彙試験を開発し経時的に試験を実施した。これまでの実践および試験結果から、日本語教育における医学用語習得の有効性が確認された。

コミュニケーション力：医療面接の量的・質的分析を行った結果、日本人学生との比較から留学生のコミュニケーションの特徴と日本語の問題点が明らかになった。日本語教育におけるコミュニケーション力向上のためのトレーニングの必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は2点ある。

医学部留学生の日本語教育を医学教育において日本で初めて体系的に実践し、一定の評価が得られたことである。開発した医学日本語コースは、成人学習理論を背景とし、第二言語習得の種々のアプローチを取り入れたコースであり、日本語以外の第二・第三言語で医学を学ぶ医学生のための言語学習に応用できると考えられる。

これまで注目されてこなかった医学部留学生の医療面接場面のコミュニケーションの特徴を明らかにしたことである。コミュニケーションを阻害する言語面の問題解決のためには継続的なトレーニングの必要性が示唆されたことは、今後増加が見込まれる外国人医療従事者教育の基礎的データとなりうる。

研究成果の概要(英文)：This study consists of an investigation and research about medical Japanese language. 1) We developed a course in medical Japanese with the objective of facilitating international students' language acquisition. We also developed and conducted a medical vocabulary test and evaluated its usefulness. 2) As a result of the quantitative and qualitative analyses of medical interviews, the communication characteristics and Japanese language problems of international students were clarified through a comparison with Japanese students.

Through these practices, surveys, and research, the effectiveness of operational practice for the acquisition and retention of medical terminology in the lower grades was confirmed in the context of Japanese language education for foreign students in the school of medicine. On the other hand, the necessity of training to improve communication skills was suggested for the upper grades.

研究分野：日本語教育

キーワード：専門日本語教育 医学日本語 医学用語 医療コミュニケーション 成人学習理論 RIAS 誤用分析 語彙試験

## 1. 研究開始当初の背景

政府の「留学生 30 万人計画」により、高等教育機関への外国人留学生数は年々増加している。一方で医学部については、我が国ではこれまで 40 年あまり医学部新設が認められておらず、全国 80 大学を合わせても毎年数十名ほどの留学生を受け入れるにとどまっており、医学部外国人留学生はほとんど増加していない。

そのような中、国家戦略特別区域とされた千葉県成田市において、国際医療福祉大学（以下、本学）では 2017 年 4 月に医学部を開設し、定員 140 名のうち 20 名の外国人留学生を受け入れ、外国人医師の育成を目指すことになった。留学生の半数以上は医学部入学時点で日本語が初級レベルであり、入学後は英語で医学を学んでいる。しかし、卒業後は日本の医師国家免許を取得し、日本でも医師として働き学び続けることが臨床医として必須であることから、留学生には日本人医師と同様の高い医学日本語能力を在学期間中に獲得することが要求されている。

本学のような初級レベルの留学生日本語教育は先行事例がないことから、手探りで教育を行っている現状にあった。何をどのように指導すれば効率的に留学生の日本語能力を向上させ、スムーズに日本語での医学教育に移行できるのか、人命に直結する分野であるゆえとりわけ日本語能力獲得は重要であり、医学専門日本語教育研究への着手は喫緊の課題であった。

## 2. 研究の目的

他大学の医学部留学生、医学部教員、外国人医師らへの聞き取り調査から、医学部留学生が優先して獲得すべき能力として（1）語彙力、（2）コミュニケーション力が挙げられた。そこで本研究では、この 2 点の能力獲得において下記を明らかにすることを目的とした。

### （1）語彙力

医学部での日本語教育において、どのように教育すれば効率的に医学語彙を習得し、スムーズに専門科目の医学教育に移行することができるのか。下記の 2 点の実践から考察する。

医学語彙の習得・定着を目的とした医学日本語コースを開発し実践する

実践における医学用語習熟度を測定するため、医学語彙試験を開発し実施する

### （2）コミュニケーション力

留学生を対象とした医療コミュニケーション教育実践に向けて、医療面接時の患者とのコミュニケーションについて次の 2 点を明らかにする。

日本人学生と比較して、留学生にのみ見られる医療面接でのコミュニケーションの特徴はあるのか、あるとすればどのような特徴か

医療面接において模擬患者から聞き返しを受けた留学生の発話について、留学生の日本語の何が問題になっているのか

## 3. 研究の方法

### （1）語彙力

医学日本語コースの開発と実践

まず、専門日本語教育におけるコースデザインの観点からニーズ調査を実施した。その調査結果を基に、医学授業と内容を連動させた医学日本語コースを開発し、試行した。試行コースを受講した留学生へのアンケートおよびインタビュー調査を基にコースの改良を行い、次年度の正規の授業として実践した。

医学語彙試験の開発と実施

別途開発に参加していた医学コーパス(基盤研究(B))「日本国内で医師を目指す外国人を対象とした医学語彙教材開発のための総合的研究」(代表者:三枝令子、課題番号:18H00679)を用い、診療科ごとに特徴度の高い語彙を抽出し医学語彙リストを作成した。リストは医師のアドバイスを受けて、留学生の履修進度に合わせた語彙選択を行った。そのリストを基に語彙試験を作成し、コース実践において実施した。

#### (2) コミュニケーション力

第一段階の量的分析として The Roter Interaction Analysis System (RIAS)を用いて医療面接でのやりとりを定量的に分析した。

第一段階で得られたデータから、第二段階の質的分析として模擬患者から「繰り返しの要請」を受けた留学生の発話を第二言語習得研究の誤用分析の観点から分類し問題点を記述した。

### 4. 研究成果

#### (1) 語彙力

まず、これまでの3年間のコース実践のデータや観察から、留学生らは3年次からの日本語での医学教育へスムーズに移行できているとみられ、医学語彙の学習・習得に本コースが効果的であることが窺えた。コース後の留学生へのインタビューでは、「医学部の授業で習ったことを日本語で勉強し直すことでより深く記憶に残る」「一人で勉強していると流してしまう語彙や表現を、みんなで勉強することでより確実に学ぶことができた」など、専門科目で学んだ内容を日本語に置き換えていくなかで、既存の医学知識を整理しながら日本語の語彙や表現を習得していくようすが確認された。

次に、実践における医学用語習熟度を測定するため、医学語彙試験を開発し経時的に試験を実施した。当初は試験は2年生までに学修する13診療科(循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、内分泌代謝系、婦人科系(産科・婦人科)、運動器(整形外科・皮膚科・膠原病)、脳神経系(脳神経内科・脳外科・精神科)、胎児・小児、感覚器(眼科・耳鼻科)、血液、腫瘍と臨床、感染症)ごとに作成し、コース実践の過程において実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大から対面での試験実施が不可能となったため、新たに全診療科をまとめた総合的な医学語彙試験を開発するに至った。試験は最終年度にコース実践の過程で継続的に年3回実施し、結果を集計した。試験結果から、医学語彙の学修において一定の成果が確認された。

#### (2) コミュニケーション力

まず、量的分析を行った結果、医療面接場面の患者とのコミュニケーションにおいて留学生には日本人学生とは異なるコミュニケーションの特徴があることが明らかになった。その特徴は、「開かれた質問」が少なく「閉じた質問」が多いこと、模擬患者の情報提供に対する「理解の確認」が少ないことの2点である。

次に、質的分析を行った結果、医療面接において円滑なコミュニケーションを阻害する言語面の要因は、発音、語彙、文法、談話と多岐にわたっていることが明らかになった。そして現状のまま留学生に対する言語運用面の支援がないままであれば、学年が上がり医療面接の実施経験が増えることのみでコミュニケーションの齟齬が減るとは考えにくいことが示された。

これらの結果から医療コミュニケーションにおける日本語面のフィードバックの必要性和6年間の教育期間における継続的なコミュニケーション・トレーニングの必要性が示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 品川なぎさ, 稲田朋晃	4. 巻 21
2. 論文標題 医学部留学生を対象とした医学日本語授業の実践 医学教員との連携による日本語教育の取り組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 専門日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三枝令子, 丸山岳彦, 庵功雄, 松下達彦, 石川和信, 小林元, 品川なぎさ, 稲田朋晃, 山元一晃, 遠藤織枝	4. 巻 76
2. 論文標題 動詞に見る医学用語の特徴 : BCCWJとの比較から見えること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 専門日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三枝令子, 丸山岳彦, 松下達彦, 品川なぎさ, 稲田朋晃, 山元一晃, 石川和信, 小林元, 遠藤織枝, 庵功雄	4. 巻 176
2. 論文標題 医学用語の収集と分類	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 80-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川なぎさ, 稲田朋晃, 吉田素文	4. 巻 52(4)
2. 論文標題 2年次留学生を対象とした医学日本語授業の実践 医学教員と日本語教員の連携による留学生教育の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 325-330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川なぎさ, 稲田朋晃	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 医学部留学生の医療面接場面におけるコミュニケーションの特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 189-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinagawa Nagisa, Inada Tomoaki, Gomi Harumi, Akatsu Haruko, Yoshida Motofumi, Kawakami Yutaka	4. 巻 7
2. 論文標題 Challenges and experiences to develop a Japanese language course for international medical students in Japan: Maximising acquisition of Japanese language by applying adult learning theories	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Asia Pacific Scholar	6. 最初と最後の頁 3~8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29060/TAPS.2022-7-1/GP2655	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲田朋晃, 品川なぎさ, 丸山岳彦, 松下達彦	4. 巻 23
2. 論文標題 医学語彙テストの開発と評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 専門日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田朋晃, 品川なぎさ, 吉田素文	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 医学部留学生が臨床実習時に感じたコミュニケーション上の困難点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 65-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川なぎさ, 稲田朋晃	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 医療面接における医学部留学生の発話分析 模擬患者に聞き返された留学生の日本語にはどのような問題があったのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本ヘルスコミュニケーション学会誌	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 品川なぎさ, 稲田朋晃, 吉田素文
2. 発表標題 医学部2年次留学生のプレゼンテーションに対する医師の評価
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲田朋晃, 品川なぎさ, 吉田素文
2. 発表標題 外国人医師はどのようにして日本の医師国家試験に合格したか
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲田朋晃, 品川なぎさ, 吉田素文
2. 発表標題 医学部留学生は臨床実習でどのようなコミュニケーション上の困難に遭遇するか
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会大阪2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoaki Inada, Nagisa Shinagawa, Gen Kobayashi, Kazunobu Ishikawa
2. 発表標題 How do International Students Learn Japanese Medical Vocabulary in Medical School?
3. 学会等名 Asia Pacific Medical Education Conference 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 品川なぎさ, 稲田朋晃
2. 発表標題 医学部外国人留学生の医療コミュニケーションにおける日本語の問題点
3. 学会等名 第4回国際臨床医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲田朋晃, 品川なぎさ, 小林元, 石川和信
2. 発表標題 医学部留学生の 医学日本語彙の学習状況
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 品川なぎさ, 稲田朋晃, 小林元, 石川和信
2. 発表標題 医学部留学生に観察された日本語コミュニケーションの問題点
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 品川なぎさ, 稲田朋晃
2. 発表標題 模擬患者から「繰り返しの要請」を受けた医学部留学生の発話にはどのような問題があったのか
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲田 朋晃 (Inada Tomoaki) (20799233)	国際医療福祉大学・医学部・講師 (32206)	
研究分担者	石川 和信 (Ishikawa Kazunobu) (80222959)	国際医療福祉大学・医学部・教授 (32206)	2019年11月に分担者から削除
研究分担者	吉田 素文 (Motofumi Yoshida) (00291518)	国際医療福祉大学・医学部・教授 (32206)	2019年度11月から分担者に追加

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	三枝 令子 (Reiko Saegusa)	専修大学・文学部・特任教授 (32634)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------